

12 新しい野菜産地づくり支援事業

【1, 080 (800) 百万円】

対策のポイント

実需者ニーズに対応した野菜の安定生産・安定供給を実現するため、加工・業務用野菜の転換を推進する産地に対し、土壌・土層改良などの作柄安定技術の導入を支援するとともに、物流業界との連携による新たな輸送システムの導入実証を支援します。

<背景／課題>

- ・近年、異常気象や連作障害により野菜の作柄が不安定となっている一方、加工・業務用野菜の国産ニーズが高まっており、輸入品からのシェア奪還を図るためにも、作柄安定技術の導入による実需者への安定供給体制の構築が喫緊の課題となっています。
- ・また、ドライバーの不足、燃油価格の乱高下等により、青果物のトラック輸送による安定的な流通に支障が生じかねない状況です。

政策目標

野菜の生産数量の増加

(1,195万トン(平成25年度)→1,395万トン(平成37年度))

<主な内容>

1. 加工・業務用野菜生産基盤強化事業

輸入野菜からのシェア奪還に向け、加工・業務用野菜への転換を推進する団地を対象に、加工・業務用野菜の安定生産・安定供給に必要な土壌・土層改良、被覆資材の使用等の作柄安定技術を導入する際に3年間支援する対策を実施します。

(対象品目：キャベツ、たまねぎ、にんじん、ねぎ、ほうれんそう、かぼちゃ、レタス、スイートコーン^{*}、えだまめ^{*})

※ 平成28年度から追加

(支援額：7万円/10a(1年目)、5万円/10a(2年目)、3万円/10a(3年目))

補助率：定額
交付先：(独)農畜産業振興機構
事業実施主体：農業者団体等

2. 青果物流通システム高度化事業

生産者、流通事業者、実需者等が連携し、トラック輸送から鉄道・船舶輸送への切替え等によって流通の合理化・効率化を図る際に必要な技術実証や、新たな技術を活用した低温輸送システムの構築等を支援します。

補助率：定額、1/3以内
事業実施主体：生産者・物流事業者・実需者等からなるコンソーシアム、民間団体

<各省との連携>

○ 国土交通省

・モーダルシフト等の推進(平成27年度継続)

荷主、物流事業者等が連携して実施するモーダルシフトの運行経費を補助(最大1/2) 等

お問い合わせ先：

生産局園芸作物課園芸流通加工対策室

(03-3502-5958)

新しい野菜産地づくり支援事業

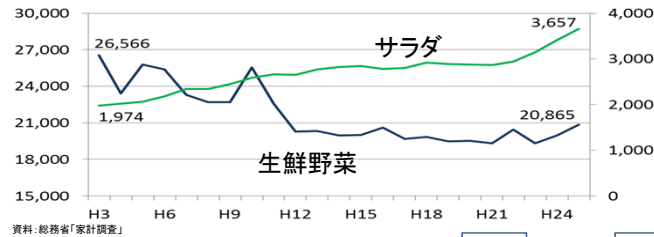
平成28年度予算概算決定額
1,080(800)百万円

現 状 と 課 題

1. 加工・業務用野菜ニーズの高まりへの対応が必要

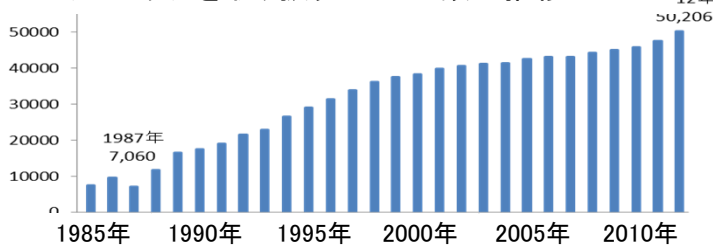
○ニーズへの対応

生鮮野菜とサラダの購入金額の推移（単位：円）



加工・業務用野菜の用途別国内消費率 約50% → 約60%
加工・業務用野菜の国産原料比率 約90% → 約70%

○カットサラダを取り扱うコンビニ数の推移



新たな食料・農業・農村基本計画
【生産努力目標】

H25 1,195万トン

200万トンの大幅増産
H37 1,395万トン

消費者、実需者の多様なニーズに対応



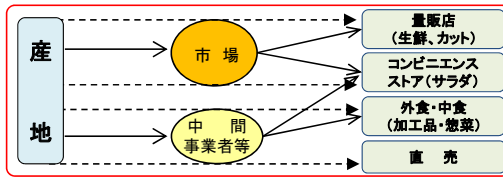
千切り野菜サラダ
すぐ使えるミックス野菜

2 国産青果物の供給体制の構築が必要

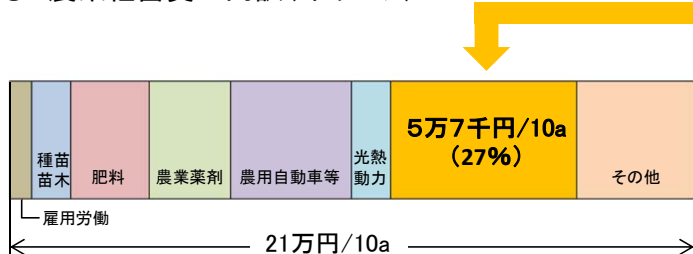
○深刻なドライバー不足

	2020年度	2030年度
需要量	103万人	96万人
供給量	92万人	87万人
過不足	▲11万人	▲9万人

○多様化する用途・流通経路



○ 農業経営費の内訳(キャベツ)



選別・調製・流通経費が約3割

青果物流通の合理化・効率化が必要!!!

支 援 内 容

1 加工・業務用野菜生産基盤強化事業

加工・業務用野菜への作付転換を推進するため、作柄安定技術を導入する場合に、当該経費の相当額の一部を定額面積払い

支援対象：土壌・土層改良、マルチ・べたがけ等の資材の使用、病害虫防除資材の導入 等
対象品目：キャベツ、たまねぎ、にんじん、ねぎ、ほうれんそう、かぼちゃ、レタス、スイートコーン、えだまめ（下線は、平成28年度から追加）



具体的イメージ

【産地の課題】

- 近年の異常気象で加工たまねぎを安定供給できず中国産を中心に輸入急増。
- 輸入品からのシェア奪還に向け、異常気象下での作柄安定と産地の構造改革が喫緊の課題。

【産地の対応】

- 作柄安定のための技術を早急に導入し、単収の向上を図る。

1年目：
7万円/10a



天地返し
(土層改良)



かん水
(保水対策)

2年目：
5万円/10a



土壌消毒



土壌改良資材

3年目：
3万円/10a



土壌改良資材

2 国産青果物高度供給事業

新たな技術を導入したモーダルシフト等の流通合理化、高品質保持技術の導入によるバリューチェーンの構築等に係る実証を支援。

支援対象：新規格の鉄コンテナによる鉄道、船舶輸送や、電源コンテナ等新たな技術を活用したパーフェクトコールドチェーンの実証等



○ 最先端物流合理化技術の実証

- 多段階温度管理システムの導入
⇒ 青果物、食品等多品目の混載が可能
- 異業種間の荷主とのマッチング
⇒ 棚卸荷の確保によるツウウェイ輸送の実現
- 大型鉄コンテナや青果物貯蔵のための低温設備
⇒ 産地における積み込み、荷おろしを効率化
⇒ 一定量のロットの品質を維持しつつ、効率的に輸送



鉄コンテナ

○ 安定供給体制の実現に向けた最先端青果物長期貯蔵技術等の実証

- 超精密冷蔵・貯蔵技術の導入
(※コンマ単位で大規模施設の温度管理)
- 超長期品質保持技術の導入
(※低温・低酸素保存、菌数制御等)
- 新たな加工技術の導入



(青果物流通システム高度化事業で実施)